2020 年度第 2 回支部研究部例会

2021．2．　28（日）
オンライン

子どもも教師もやりたくなる授業づくり②

－２年生のじゃまじゃまサッカーから学ぶ－

○第２回の支部研究部例会について

前回の研究部例会（2020.10.31）は、コロナ禍により、異例の同志会新年度（９月）をまたぐ 2019 年度と 2020 年度を兼ねた例会となりました。また、ここ数年の研究部テーマ「授業づくり」とは異なる「運動会を創る」という教科外体育・体育的行事を扱った例会内容であったため、久しぶりの研究部の例会テーマである「子どもも教師もやりたくなる授業づくり」に戻ります。

「『自分がこれからやる』授業を素材にし、先行する実践例などから学びながら『計画ー実施』していき、『実践報告』という形で例会にのせる。そのことで総合的（一つ一つは深くないが）に『教材について』やその背景としての『文化論的視点』、さらには『子どもの捉え方』等を学んでいけるような支部研究（例会）を目指したいと考えました。そして、このコンセプトで、昨年度から全５回にわたって支部例会が行われました。若い会員、ベテラン会員共々実践を通して交流したいと考えています。これまでの例会は、「ひとまずやってみて、その意義を問う」というある意味「大阪らしい」特徴（やってから考える）が出ていたように思われます。そして、何よりもどの参加者も例会の内容に参加できる、という筋道が「実践を通して考える」というところからできていったのではないかと思われます。今年度も継続して「実践を研究の土台にのせる」というやり方で研究を進めていこうと思います。

今回の実践は、研究部であり豊能三島ブロック所属でもある大瀬良篤先生の「じゃまじゃまサッカー」です。大瀬良先生の実践は、２年生を対象に行われています。大瀬良先生の学級は、２年生 31 人（男 17 人、女 14 人内支援３人）。体育の授業に入れなかったり、感情的になりやすかったりする子は少なく、体を動かすことが好きな２年生です。話し合いをすることも好きで、「作戦を立てる時は盛り上がるかも。」と大瀬良先生。

ただ、慎重派が多いクラスの中で、じゃまゾーンを突破しようと思う気持ちをどうつくるのかが課題となる、と考えておられました。そこで、

・ボールを足で扱うことは、難しいけど楽しいという感覚を体験させる
・低学年の発達に応じた、空間認知（時空間等）の力を高める
・集団で作戦を立てて取り組む楽しさを体験させる

の３つをねらいとし、「慎重派の子どもたちがじゃまゾーンを目の前にして『行こう！』と思ってスタートできるような状況をつくりたい。」と臨まれた実践です。

また、もう一つの柱は、今回の「じゃまじゃまサッカー」実践を機に、「じゃまじゃま」の生みの親である球技プロジェクト舩冨先生から誕生の経緯や低学年における指導のポイントを語っていただきます。

今や「じゃまじゃまサッカー」は、同志会大阪のみならず全国でも広く行われており、だれでも取り組める教材といえます。それだけに「とりあえずじゃまじゃまをやっておこう…。」というような安易なアプローチもあり、「独り歩き」や「新たな教材開発の停滞」も生まれているように思えます。「じゃまじゃまサッカー」が、どのような願いで作られたのか？ねらいは？等を聞き、初めて実践しようと思われる参加者も、実践経験のある参加者も共に考える機会にしたいと考えています。

【日　程】

前半　　司会　（楠橋）　記録　（研究部）

１３：００～１３：０５	今年度の支部研究について（楠橋）
１３：０５～１３：４０	「じゃまじゃまサッカー」で大切にしたいことと、低学年における指導のポイント（舩冨氏）
１３：４０～１４：４０	２年生の足を使ったボール遊びとサッカー学習実践経過報告 ―「じゃまじゃまサッカー」を中心に―（大瀬良）
１４：４０～１５：３０	質疑・討議、感想交流

第２回支部例会メモ＆感想文用紙

氏名（　　）